



お詫

明治大学より校より又、雑誌の  
寄附紙が五六枚きこころに  
届きよんまね玉へ僕がと  
七紙あるが、標紙が一枚も  
いあつら又、しるを知らず  
ちがはぬ  
明りよめ、片面分りとし  
おあつらちき、中紙一枚  
わづらの雑誌、あつらあ  
員が、あつら、あつら、あつら

5 10 15 20 25





よあつら又しく久そつらき

ちびる敷

鳴りよるふくしやるふらつらし

おあつらちきまほけ板

わづらのさげれしあつらあひ

只がまんあつらあつらあつら

をきくのは何つあつらあつら

見たり

長きあつらあつらあつらあつら

人におつらあつらあつらあつら

あつらあつらあつらあつらあつら

人つらあつらあつらあつらあつら

あつらあつらあつらあつらあつら

人に向つて逆境に居る人が

頭を下げるといふ意味は。單に

それだけの意味はあつらあつらあつら

供人ははあつらあつらあつらあつら

不潔いふの様に考へる。夫が

あつらあつらあつらあつらあつら



そわきりの海鳥あまの味である。  
供人はは海鳥を意味を大受  
不潔いろうの標に考へ了。夫が  
のう供人は学問を虫や石や  
のち桑が狂つて仕舞ふ。  
他日<sup>日</sup>の標境に立つる時はその  
逆境に立つる人を桑程にせぬ  
標に淫意し給へ

予の好む

セリシヤク

夏目金之助

中川 先生

拙稿は拙者でい、この僕の名~~夏目~~一  
て神田路下三丁目明治大学有  
夏目金之助へ送つてくれ玉へ。さうして  
名を予僕に知らせんくれ玉へ



中川先生

拝見は恐るべき、さうして僕の名目も  
て神田路丁三丁目明治地大子分館  
支那社へ送つてくれ玉へ。さうして  
名目も僕に知らせんてくれ玉へ

本館駒込千駄木丁五十七  
ノ 夏目金之助

七月二十一日

小石川区牛早町愛友  
社

中川先生  
用事





夏目漱石手東  
中山世太郎宛



特別

文庫14

C19

